

1 a 情報  
b 照明  
c 見極める

2 I ウ II ア III イ IV エ  
3 美しいもの

4 A ア B ウ C イ D オ  
(記述題)  
6 エ 7 (記述題)

8 大工 設計士  
(順不同・完答)  
9 セン 10 家(住宅)

2 1 a 職員  
b 調節  
c 勝手

2 リナと舞香  
3 A さ B め C じ

4 I エ II ア III イ IV ウ  
(完答)  
5 ウ 6 ア 7 ア・エ・オ・キ  
(順不同・完答)

8 エ 9 (記述題)  
10 まばたき 11 イ

1 5 天才でなくても経験を重ねて美しく  
さを再現できなくても経験を積んで美しく

(同意可)

7 注文者が勉強してても美しい家をつ  
くれるレベルに届きにくい家をつ  
ない家をつくる人に届きにくい家をつ  
ないものをつくるからせよとす  
とが多いことを。うとす

(同意可)

2 9 みんなに置いて行かれないようにと周りを気にし  
て無理をしていた少し前の自分とリナが重なり、  
苦しくなると同時にリナに同情したから。

(同意可)

[配点]	
1	1
5	14
7	26
その他	
2	2
9	18
各2点×13＝26点	
各6点×3＝18点	
各4点×14＝56点	

①

- 1 a 「報」の左側を「達」の右側と混同する間違いがよく見られるので注意しよう。b 「照明」は「証明」と確実に区別しておくこと。  
c 「極」の右側の形を間違えないようにしたい。
- 2 Iは「美味しい料理」と「美しい料理」との対比で「でも」が入る。IIは直前の「目から入ってくるジョウホウに左右されやすい」が理由であとの内容につながるので、「だから」が入る。IIIは直後が具体例になっているので「例えば」が入る。IVはあとに「から」があるので「なぜなら」が入る。
- 3 線①の前は「美しい料理は誰でもつくれるわけではない」、——線①のあとは「美しい家をつくることはだれにでもできるわけではない」という内容になっている。これを把握した上で、「料理」「住宅」のどちらにも使える表現をさがす。読み進めると「最初に言った通り、美しいものを生み出すことは、誰もが簡単にできることではありません」というところが出てくるが、この「最初に言った通り」に注目すると、最初の内容が反復されていることがわかるので、通読時に結びつけておきたいところである。
- 4 Aは「温かさを保つ」と読み下すことができ、二字目が一字目の目的語になっている。Bは一字目が二字目を修飾している。Cはどちらも訓読みで「かわかる」と読めることに注目すると、似たような意味の二字でできているとわかる。Dは一字目と二字目が反対の意味になっている。
- 5 「シンメトリー」が「何の最たる手法」なのか、と考えるとわかりやすいだろう。
- 6 線③を含む段落の最後に「どういうものが美しいかということを理解している人に頼めば、何も言わなくてもできるのです」とある。裏を返せば「どういうものが美しいかということを理解していない人に頼むからできない」ということになる。ということは、どういうものが美しいかということを理解している人がそれほど多くないから難しいという内容が導き出せる。ウは——線③の直後にある内容だが、あくまで具体例の一つに過ぎない。
- 7 「いくつか」とあるので、並列を意識しながら読み進める。直後の段落の一つ、さらにそのあとの段落に「もう一つの問題は」とあり、二つの内容が見つかる。問いにもあるが、「家」の問題であることにも注意して答えを書こう。
- 8 線⑤の直後の段落の冒頭に「例えば」とあるので、この段落に具体例が示されていることがわかる。ここに「ヨーロッパ的な住宅を、知り合いの大工さんや知り合いの設計士に頼んだ」という話が書かれている。これが「相手につくった経験のないものをつくらせようとする」ということである。「会社」という答えは「家の場合」という指定を考えると広すぎる。
- 9 前の段落では、テラーに飾っているスーツを見て「センスや腕を判断する必要があります」と書かれていた。これを家にあてはめると「ビルダーがつくった家」を見て、ビルダーの「センスや腕」を判断する、ということになる。
- 10 冒頭に料理の話があったり、中盤でスーツの話があったりしたが、それらの話はいずれも「家」「住宅」の話につながっている。筆者が言いたいことは「家」の話なのである。

②

- 1 a 「職」の十一画目は右端まで長くのばす。b 「節」の最後は「㇀」（ふしづくり）であり、「おおざと」ではない。c 「勝」の最後の部分は「力」である。「刀」にしないように気をつけよう。
- 2 次の行には「発端」とあり、その後十数行にわたって「事件」の詳細が書かれている。要するにリナが舞香に対して怒った、というところで起きた事件である。それを一行の空白があった後で「リナと舞香のけんか」とまとめている。
- 3 A「いきかい」は言い争いや、ちよつとした争いのこと。B「色めきたつ」は活気づくということ。C「たじろぐ」はひるむこと。
- 4 Iは二人がはげしく言い争っている中で周りがうるたえているさまをイメージすれば「おろおろ」となる。IIは直前の文にも「きつさと終わらせてしまおう」とあるので、「てきばきと」が入る。IIIは周りのメンバーがリナの笑いの理由が理解できないので「ぼかんと」が入る。IVは自分の信念にもとづいてはつきりと言っているイメージで「きつぱりと」が入る。
- 5 リナがやたらとくつついてくることにより舞香が目をそらしていることに対してちなみが困っていたり、「双方に気をつかってくたびれているちなみ」とあったりするところからウに決まる。
- 6 あらすじにあった通り、ちなみは元々仲のよかった舞香たちの班がよかったです。しかし、リナが「あたしもこっちの班のほうがよかったかなあ」と言っていることに対してちなみは焦っている。最後に今野晴子の味方をしたことから、現在の研究班メンバーに対する「情」も生まれているということがわかる。
- 7 舞香から見て「あっちの班」なので、現在のちなみの班である。文章後半で話し合っているメンバーを入れる。もちろんリナは違う。直後、今野晴子の様子を気にしているので、「ひやりとした」は今野晴子がリナの発言をどう受け止めるかを気にしたという表現と取れる。「熱い」はリナに対する不快感、「痛い」は、問9とも関連するが、——線⑥にも「痛んだ」とあることにも注目すると、自分自身の過去の姿を想起することの「つらさ」ととらえられるだろう。
- 9 直後に「かわいそうに」とあるので、リナをかわいそうに思ったのは間違いない。なぜかわいそうなのかというと、過去の自分の姿が重なったからである。それは直前からわかる。ただリナをかわいそうに思ったのではなく、過去の自分を見ているようで胸が痛んだと考えると、「苦しさ」などが妥当だろう。
- 10 ちなみの一言で、今野晴子の緊張も解けた、ということだろう。それでまばたきもおさまったのである。
- 11 決め手となったのはちなみの発言である。それを聞いた後の行動なので、「ちなみが反論し」が入っているイが適切である。アはその要素がない。ウの「怒りが込み上げてきた」ならリナについてもっと別の表現になるはずである。